

2026年度 C日程

情報学部・健康栄養学部
国際学部・経営学部

国語

(現代の国語、言語文化〈近代以降の文章〉)

注 意

1. 開始の指示があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 机上には、受験票、黒鉛筆、消しゴム、時計以外のものを置かないでください。
3. 受験票と机の上に貼ってある受験番号が同じかどうか確認し、問題冊子と解答用紙のすべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
6. 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行動が見受けられた場合は、監督者が注意をします。
 - ③ 不正行為を行った場合は、直ちに受験を取りやめさせます。
7. 試験終了後、この問題冊子を持ち帰ってください。

受 験 番 号	氏 名

問題は **一** から **三** までで、一ページから二十五ページまであります。確かめてください。

解答は解答記入欄 **1** から **38** までにマークしてください。

一

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

以前に新聞紙上で、宇野千代さんが「生きて行く私、人生相談」というコーナーの回答者を、一年にわたって務められたことがある。「宇野さんがむかしやってた人生相談、めっちゃくちやおもしろいぞ」と、佐々木幹郎さんに薦められ、十数年前の毎日新聞のその連載記事をさっそく調べてみた。一読してすぐにそのおもしろさがわかった。

たとえば、一九八四年八月十九日の相談はこういうものである。

Q うぬぼれるのもいいかげんにとお叱りをうけるかもしれませんが、容貌、スタイル、性格も平均以上で、学歴もランクの高い大学を卒業。お茶、お花はもちろん、あらゆる習い事をやり、花嫁修行中の「良家の娘」という演出をしておりました。しかし、心のなかには、生きていくのに男も女もない、能力だけが唯一絶対のものと信じるものがあり、ずっと難関中の難関に挑戦してきて、いつしか三十三歳。もう能力の限界、とても歯がたたないと思うようになりました。今さら、何か自立できる仕事といっても、おいそれとあるわけでもないでしょうし、かといって、とびきりプライドの高い私に、満足できる結婚相手

が現れるとも思えません。この先どういう心構えで生きていけば、仕事と結婚という二つのしあわせを手を得られるでしょうか。（山形市 T・S）

これに対して、宇野さんの答えはこうである。

A 「^{うぬぼ}いい年をして、自惚れるのも好い加減に」とお叱りを受けるかも知れませんが、^{うぬぼ}と言うあなたの手紙の書き出しを読んで、私は思わず微笑しました。これでは、あなたの自惚れるのも無理はない、と思っただけからです。

容貌、スタイル、性格も平均以上で、学歴もランクの高い大学を卒業して、卒業後は、お茶、お花は^{もちろん}勿論、^{あち}ありと凡ゆる習い事をやり、花嫁修行中の「良家の娘」という演出をして来た、と言うのですね。

しかし、あなたの心の中には「生きて行くのには男も女もない」能力だけが、唯一絶対のものと信じるものがあって、ずっと難関中の難関に、挑戦して来た、と言うのですね。そして、いつしか三十三歳。いまになって、もう能力の限界、とても歯が立たないようになった、と言うのですね。

あなたはここで、どうして「いつしか三十三歳」ではなく「まだ、たった三十三歳」とは言わないのですか。結局、これまでの努力は水の泡、とは、何と言うことですか。ありと凡ゆる修業を^{すべて}凡て、なし終えたのに、いまとなつては、結局、これまでの努力は水の泡とは、何と言うことですか。

あなたがこの手紙の最初に列記し、数え上げた、凡ての習い事は、いまとなつては能力の限界であつて、それらの花嫁修業のようなものは、凡て玩具のようなものである。どれ一つとして、いまさら、自立出来るようなものは、おいそれとある訳ではないことが、やつと気がついたと、あなたは言うのですね。

しかし、そうかと言って、飛び切りプライドの高い筈のあなたに、満足出来るような結婚相手が現れるとも思えないのに、それでも、仕合わせになりたい、と言う気持ちとはとても強く、このさき、どう言う心構えで生きて行けば、仕事と結婚と言う、この二つの仕合わせを手に入れることが出来るかどうか、あなたは私に対して、その解答を求めているのですね。私はここでも、あなたの完全主義を悟つて、微笑を禁じ得ませんでした。

長い引用になつたが、ここまでは前半である。このあと、「あなたはこの人生を何から何まで完全に、希望通りにして暮らすことが出来る、と思つてゐるのではないでしょうね。ほんのちよつと気持ちを楽にして、この完全主義の形を、一桁だけ、ちよつと下げて見てはどうでしょうね……」というふうに、少しずつ、やわらかい助言がつづいてゆく。相談者の欲望を、彼女がおもつてゐるよりも「ほんの一桁」格下げしただけで、うんと楽になれるということを、ゆつくりと、そして切々と説いてゆくのだ。もうおわかりのこととおもうが、引用した部分は、ほとんど質問者のことばの反復である。「……、と言うのですね」というフレーズが、回答者によつてしきりに、そして執拗に発せられる。

相談者をおちよくつてゐるのだろうか。とんでもない。まったくの逆である。

第三者にとつてはただの反復にみえる宇野さんのこの回答は、相談者にとってはなにものにも代えがたいものとなつたはずだ。思いを決して漏らしたそのことばが、どれひとつ省くことなく受けとめられ、送り返される。一言一言をていねいに確認しながら、である。ことばの端つばがだれかにつながつてゐる、だれかにキャッチしてもらつてゐるという安心がどこかで生まれてゐる。

宇野さんの回答は、たいていのばあい、まずは相談者のことばをたつぷりと反復し、そしてちよつと距離を置いて横槍を入れ、そして最後にこんな調子で締めくくられる――

「あなたはまずこの普通の暮らしを目的にして、恋愛もし、出来たらぜひ結婚もして下さることを、私は待つてゐるのです」。

「ここにあなたの提出した質問は、そのまま、あなたにさし出した私の質問になるのです。さあ、二人で一緒になつて、この危機感をなくすることが出来るかどうか、考えましょう」。

わたしに語りかけてくれている、という感触が大切なんだろうとおもう。聞いてもらえた、というその実感が大事なのだとおもう。それによつて、相談者の問い、というよりも訴えは、しかと受けとめられることで、半分以上解決したと言つていいのではないだろうか。「患者は、口を開きはじめる。得体の知れない不安の実体が何なのか、聞き手の胸を借りながら捜し求める。はつきりと表に出すことができれば、それで不安は解消できることが多いし、もしそれができないとしても解決の手掛かりは、はつきり

つかめるものである」。^{注1}第一章に引いたあの中川米造のことは、まさに地で行くような人生相談だと言つてよい。

ことばを受けとめるということの意味を考えると、もう一つ、忘れられない話がある。

アフリカ南部のカラハリの狩猟採集民の調査をずっとやってきた人類学者の友人がいる。この調査をやってきた八年間というのは、じつは障害児の父親であることをじぶんで受け入れる八年でもあった、とこの友人は言う。かれ、菅原和孝がもつとも力を入れている研究のテーマのひとつは、身体コミュニケーションである。それで、カラハリについて書いた最初の著作『身体的人类学』でも、身体のふれあい、指さし、たがいの身体特徴のからかいあい、あるいは（ことばのやりとりというよりも）合唱のような会話などを、とくに詳細に分析していた。「透明な意味の体系として私たちを支配する言語とは異なつた言葉のありかた、身体とひとつに融合した言葉のありかたをなんとしてでも探らねばならない」——かれが取り組んだ課題、その核にあるものをかれ自身のことばで表現するということになる。

この課題は、かれとかれの長男とのあいだで毎日くりかえされる「ナンセンスな会話」から育まれたものかもしれない、とかれはその本の最後のところで漏らしている。

「ねえ、××つて言つてちょうだい」と長男が言う。すると父は、「××だよ」と鸚鵡^{おうむ}がえしに答える。この××は、数ヵ月周期で少しずつ変化してゆくのだそう。四回目にカラハリに行く直前に父子のあいだで交わされた問答は、つぎのようなものだった。

「ねえ、チキンのヘリコプターに乗ったらなあに？」

「そんなのに乗ったら、おズボンが油だらけになっちゃうぞ」

一日に何十回とこの会話をくりかえしたという。そして、長男から発せられるこの決まりきつた質問のことば、それをかれは「^②すつとさしのべられ私の腕をしっかりととらえる彼の「手」とほとんど同じもの」のように感じる。ことばがかれを掴^{つか}むのである。あるいは、書きなおせば数十字にしかないことばが、ふたりの身体をしっかりとつなぐ通路になっているのである。かれはカラハリの最後の調査から帰つてきて、こんな経験をする。

佑卓はかんしゃくをおこしたり悪いことをしたりして、親にこっぴどく叱られ、ひとしきり荒れ狂ったあとに、「^③ねえ、ゆつくんきょうなにしたの？」と自分のほうから問いかけてくるようになった。「こんな悪いことをしたでしょ」と、たつたいま起こったばかりの事件をまとめてやると、それでにんまりとして、気分を回復できるようなのだ。佑卓がこのように自分の感情をコントロールする習慣を身につけるのをまのあたりにして、私は言葉の圧倒的な力に愕然^{がくぜん}とした。「やり場のない怒り」とよく言う。しかしひとたびその怒りに、ある「物語」を付与してやれば、案外、感情の混沌^{こんとん}たる嵐はしかるべきかたちに秩序づけられるのかもしれない。〔……〕

彼はすでに自分の頭のなかで言葉による「まとめ」を思い描いている。しかしそれを他者の口から言ってもらうことが大事なのだ。親が

そのときまたまたまうわのそらで、すぐに適当な「まとめ」をしてやらないと、彼は自分が言っただけの文章の最初の部分だけちよつぴり言っただけ、あとを続けるように促すのだから。

だから言葉が身体や感情のアナログ的過程を分節化することだけに意味があるのではない。それならば佐卓は独白して気持ちをおさえることもできるはずだ。まさに言葉が他者のほうから彼にむかって「さし」のべられる「ことが彼にとっては仲なよりの儀式のための必要条件なのである。言葉を情報伝達のための記号として操作することに長けていない「自閉症児」であればこそ、身体と融合した言葉の真に魔術的な力を感知し、必要としているのではなからうか。

「まとめ」とはとてもいいことばだ。「物語」の共有と言っでもいいのかもしれない。この「まとめ」の交換が、この子を納得させる。「物語」として「まとめ」することで、子どもがじぶんでは理解も処理も制御もできずにいる感情にあるかたどりをあたえられ、それで「嵐」がおさまる。しかし、それはほんとうはことばだけで「まとめ」られているのではない。「物語」といいながら、それはたんなる解釈ではない。意味があたえられたからといってすむものではないのだ。「物語」がある身体をもったことばとしてじぶんに触れているということのからだでの確認が、なによりも先にそこに求められているのだと言っでもよい。ことばが身体をもつとはしかし、どうということなのだろう。

菅原が調査しているカラハリのグウィ族では、会話はしばしばことばのやりとりにならないそうである。だれかがしゃべり、別のひとがそのこと

ばを聴き、そしてことばを返すというふうに、「一度に一人だけがしゃべる」リニアなプロセスというのは、わたしたちにとっては自明のもののようにみえても、人間の会話にとってかならずしも絶対的なものではない。むしろ相手の発話に同時にじぶんの発話を重ねるというようなコミュニケーションの形態というのがあるのではないか、とかれは問ひかける。

「同時に声を響かせあい溶かしあうこと」によって成立するコミュニケーション^⑤、そこでは会話はまるで〈歌〉のように進行する。このような同時発話においては、ひとは「意味」や「物語」を交換しているというよりも、「身体として共存している」という感覚をたがいに呼び起こしあっているのではないか、とこの人類学者は自問する。「同時発話のもつとも根本的な動機は、たがいに協同しあいながら〈ひとつの声で〉何かを語ることにあるのではないか。……まったく同じ単語やフレーズがみごとにユニゾン（斉唱）されるとき、ことばはなにか情報を運ぶために口から発せられているわけではなく、まさにふれあう足と足のようになり、同時に共有されるためにこそ発せられている」、というのである。

親子であるフレーズをいつ果てるともなくくりかえすとき、そのフレーズに、「ずっとさしのべられ私の腕をしつかりととらえる彼の「手」とほとんど同じもの」を感じたこの父親は、そのとき語のつよい意味で、ともに歌っていたのだとおもう。歌うこと、それはわたしが別のだれかに、ある意味内容をもったメッセージとか情報を伝えることではない。〈わたし〉という人称のなかに閉じこもったふたりが向きあうことではない。それは、わたし、あなた、かれといった人称の境界をいわば溶かせるようなかたちで、複数の〈いのち〉の核が共振する現象とでもいふべきものだ。あるいは

は、現象学者、メルロ＝ポンティの言いまわしを借りて、「わたし」よりもっと古いわたし」たちがその身体ごと共鳴する現象と言ってもよい。

ファシズムといった、ある種の固定観念に憑かれた集団的発狂においても、追われる者、虐げられた者たちの悲劇的な抵抗においても、あるいは死者を弔う儀礼（御詠歌やお経）においても、内から悪魔的な力を、最後の勇気を、あるいは深い哀悼の情を腹の底から絞りだすために、ひとは歌うことがある。声を響かせあうことがある。だが、「われわれ」として手を取りあうという以上のものが、この親子のあいだにはある。「すつとさしのべられ私の腕をしっかりととらえる彼の「手」とほとんど同じもの」が。人称の差異を溶解させて無人称の共同性のなかにじぶんを浸すのではなく、あくまで「だれ」として固有な存在が別の「だれ」にふれてゆくような経験、ここではことばがことばとして遊離することなく身体に深く根ざしたまま、別の身体と交わっている。その存在じたいが楽器（しゃべる身体、うめく身体、鳴る身体……）のように震えながら、別の存在がおなじようにおのれの身体を震わせながら、とんとんと「わたし」を叩いてくる。

聴くひと、聴くことのできるひとは身近なひととはかぎらない。家族や恋人や友人とはかぎらない。逆に関係が近いことが聴くことをむしろ難しくするようなばあいもある。夫婦や親子というのは、聴くことの可能／不可能の両極をなしやすくとすら言える。では、ことばがとどいてるとたがいが身体ごと感じることができるようなことばの交換とは、いったいどのような状況のことなのだろうか。たったひとりの「だれか」が聴いてくれているということがじぶんを支えてくれるというのは、いったいどのようなことなのか。ことばが身体をもつということへの先ほどの問いは、（さら

にさかのぼって）《聴くことの力》へのわたしの問いは、このようにも言いかえることができる。

（鷺田清一「『聴く』ことの力」による）

注1 第一章に引いたあの中川米造のことば：この文章が載っている本の第一章では医学者、医学思想家である中川米造のことば

が引用されている。

1 問1

傍線部①「おいそれと」が表す意味として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① まさか
- ② 例外なく
- ③ 偶然に
- ④ 簡単には
- ⑤ いまさら

2

問2

宇野千代への相談者である三十三歳の女性が抱える悩みの核心として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 高い能力とプライドを持ちながらも、仕事と結婚の双方で満足のいく結果が得られず、将来の生き方に行き詰まりを感じていること。
- ② あらゆる花嫁修業を積んできたにもかかわらず、自身の容姿やスタイルに自信が持てず、結婚相手が見つからないこと。
- ③ 高学歴であることがかえって足かせとなり、男性から敬遠されがちであるという社会の風潮に不満を抱いていること。
- ④ 難関に挑戦し続けた結果、心身ともに疲弊してしまい、社会から孤立していることに強い不安を感じていること。
- ⑤ 仕事での成功を第一に考えてきたが、三十三歳になり、急に結婚への焦りを感じ始め、自分の価値観が揺らいでいること。

3

問3

宇野千代が相談者の「完全主義」を指摘した後、どのような助言をしているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 完璧を求めるのではなく、不完全な自分を愛せるようになるべきだと説いている。
- ② 希望のレベルを少し下げること、もっと楽に生きられるようになることと説いている。
- ③ 全てを諦めて、今の自分を受け入れるべきだと説いている。
- ④ 目標を一つに絞り、まずは仕事で自立することに専念すべきだと説いている。
- ⑤ 結婚相手の条件を緩和し、妥協することの重要性を説いている。

4

問4

宇野千代が人生相談の回答で用いた最も特徴的な「手法」を、筆者はどのようなものと分析しているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 相談者が気づいていない問題点を、鋭い質問によって気づかせること。
- ② 「それはお辛い^{つらい}ですね」というように、相談者の気持ちに深く同情すること。
- ③ 自身の過去の失敗談を話して、相談者を安心させること。
- ④ 具体的な行動目標を複数設定し、それを実行するように促すこと。
- ⑤ 相談者の言葉をほぼそのまま用いて、繰り返すこと。

5

問5

宇野千代の相談における姿勢がもたらした最も重要な「心理的効果」を、筆者はどのようなものと分析しているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 自分の言葉が他者に確かに受け止められているという深い安心感。
- ② 問題を解決するための明確で具体的な答えを得られたという納得感。
- ③ 自分の悩みが非常に高度で知的であることが理解されたという満足感。
- ④ 自分の悩みが実は取るに足らない小さなことであったという気づき。
- ⑤ 宇野千代に認められ、さらに難しい課題に挑戦しようという意欲。

6

問6

菅原氏と長男の間で繰り返される「ナンセンスな会話」について、筆者はどのように捉えているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 息子の言語能力を育むための、父親によるユニークな教育的アプローチである。
- ② 日常のストレスを解消するための、父子間のユーモラスな遊びである。
- ③ 意味のない言葉の羅列であり、自閉症児とのコミュニケーションの困難さを示している。
- ④ 父親が息子の障害を受け入れるための、儀式的な意味合いを持つ行為である。
- ⑤ 意味内容は重要ではなく、言葉を交わす行為自体が、二人の身体をつなぐ通路となっている。

7

問7

傍線部②「すつとさしのべられ私の腕をしつかりとらえる彼の「手」とほとんど同じもの」とあるが、この比喩表現が伝えようとしていることとして、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 父と子の会話が、まるで手を取り合って踊るように、調和のとれた一体感を持っていること。
- ② 父親が、長男の言葉を一つひとつ手で受け止めるような感覚で、大切に聞いていること。
- ③ 言語能力に障害がある長男にとって、言葉は手探りで世界と関わるための不器用な道具ではないこと。
- ④ 長男の言葉が、物理的な接触と同じくらい強いつながりを父親に感じさせていること。
- ⑤ 長男が、言葉を発する際に、実際に父親の腕をつかむ癖があったこと。

8

問8

傍線部③「ねえ、ゆつくんきょうなにしたの?」と、菅原氏の長男が叱られた後に問いかける行動の背景にある心理を、筆者はどのようなものだと解釈しているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 自分が叱られた理由を客観的に説明してもらうことで、親の愛情を再確認しようとしている。

② 自分の悪事を他者の口から「物語」としてまとめてもらうことで、混乱した感情を整理し、回復しようとしている。

③ 親の注意を別の話題にそらすことで、気まずい雰囲気から逃れようとしている。

④ 叱られた内容を忘れてしまったため、もう一度確認すること、反省の材料にしようとしている。

⑤ 自分の行動を「物語」として語らせることで、親を困らせ、ささやかな復讐ふくしゅうをしようとしている。

9

問9

傍線部④「分節化」とあるが、その意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 抽象的な概念を、具体的な事例を用いて説明すること。

② 多様な意見を、一つの結論へとまとめていくこと。

③ 複雑な物事を、単純な記号に置き換えて表現すること。

④ 個別の事象から、共通の法則やパターンを見つけ出すこと。

⑤ 連続しているものに区切りをつけ、要素に分けて認識する。
い。

10

問10

カラハリのグウィ族の会話の特徴として挙げられているのは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 相手の発話と同時に自分の発話を重ねる「同時発話」がしばしば見られる。

② 厳格な長幼の序があり、年長者の発言を遮ることは決していない。

③ 全ての会話が歌のようなメロディーに乗せて行われる。

④ 沈黙を重視し、言葉を交わすことなく意思疎通を図ることが多い。

⑤ 比喩や擬音語を多用した詩的で難解な表現が好まれる。

11

問11

傍線部⑤「わたし、あなた、かれといった人称の境界をいわば溶かせるようなたち」とあるが、これが指す状態として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 主語が誰であるかが問題にならなくなり、言葉の論理的意味だけが純粹に共有されている状態。
- ② 敬称や社会的な役割を示す語の使用が停止され、全ての人が対等な立場で発言できる状態。
- ③ 会話の当事者だけでなく、その場にはいない第三者のことで考慮に入れた、包括的なコミュニケーションが行われている状態。
- ④ 個々の自我の区別が曖昧になり、集団としての一体感や共感が生まれている状態。
- ⑤ 自分の視点と相手の視点を自由に行き来し、相手の社会的立場を配慮できるようになった状態。

12

問12

菅原親子のコミュニケーションがファシズムなどの集団的発狂と異なる点を、筆者はどのように考えているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 熱狂や興奮を伴わず、静かで穏やかな雰囲気の中で行われている点。
- ② 政治的な意図や目的を持たず、純粹な親子の愛情表現として行われている点。
- ③ 声を合わせるだけでなく、言葉の意味内容も重要な役割を果たしている点。
- ④ 他者を排除するのではなく、他者との共存を目指す、開かれたコミュニケーションである点。
- ⑤ 集団の中に個が溶解するのではなく、固有な人どうしの一対一の関係性が保たれている点。

13

問13

本文の趣旨として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 真のコミュニケーションは、言葉の意味を正確に伝え合うことよりも、互いの存在を身体で感じ合うことにある。
- ② 言葉は諸刃もろはの剣であり、人をつなぐこともあれば、人を深く傷つけることもあるため、慎重に使うべきである。
- ③ 相手を理解するためには、言葉は無視して、表情や身振りなどの非言語的な要素に注意を集中する必要がある。
- ④ 効果的なコミュニケーションのためには、まず相手の話を最後まで聞いてから判断するという態度が何よりも重要である。
- ⑤ 言語能力は人間の知性の根幹をなすものであり、その能力を磨くことが豊かな人生を送るための鍵となる。

二

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

テレビジョンというものには、どこかひどく可愛らしいところがあるような気がします。勿論^{もちろん}今では、テレビも実験段階をとうに通り越して、ひとつの巨大な企業となり、マス・コミュニケーションの有力な手段と化しつつあります。そのシアリアスネスを疑う訳ではありません。しかし例えば、夕暮^{ゆうぐれ}の街を歩いていて、とあるラジオ屋さんの店先などで、何台ものテレビセットが一齐にテストパターンなどをきらめかせているのを見たりすると、ぼくは何か微笑^{ほほえ}ましい気持ち^{きもち}になってしまいます。

おそらくぼくなどの一生かかっても理解出来ぬような沢山のもののつながりによって、そのテストパターンは、夕闇の中で輝いているのでしょう。複雑な電磁波の理論、何度も何度もくり返された実験（そのために一生を捧^{ささ}げた人だっているに違いない）、莫大^{ばくだい}なお金、それに続いて今度は電気^{でんき}のデの字も知らぬような政治屋さんやお金持^{かねもち}たちが登場します、無数の取引、無数の宴会、テレビの発明に要したものの、おそらく数百倍ものお金、考え出せばきりがありません。しかしそれらのすべての巨^{おほ}きさ、重さにかかわらず、テストパターンはひどく明るく軽やかに、ちらちら、ちらちらと輝いているのです。

ぼくはそこにひとつの可愛い、子供っぽい夢だけを見ます。テレビジョン——遠く離れたものを見たいという夢、どんな子供でも一度は抱く千里眼の夢。テレビジョンとは、本質的にはその単純な夢の実現以外の何ものでもない、ぼくにはどうしてもそんな風に思えるのです。

この複雑な現代社会においては、物事を単純化しようという試みは、

A

失敗に終^{おわ}りがちです。だが人間というこの単純な動物は、複雑なものを何時^{いつ}までも複雑なままにしておくことにも耐えられません。一国の経済をあずかる大臣も、お腹^{なか}をこわした後のおかゆと梅干^{うめぼし}に生きる喜びを感じることもだつてあるでしょう。ノーベル賞をもらった科学者にしても、彼の部厚^{べう}い著書の頁^{ページ}の間に、模型飛行機的设计図をかくしているかもしれません。生きることの単純な喜び、それ無しではどんな巨大な企業も、どんな複雑な理論も、無意味に等しいのではないのでしょうか。そんな単純な喜びなど、もうこの現代には存在する余地がないとおっしゃる方もあるかもしれません。もしそれでも、その喜びへの努力と夢は残せる筈です。テレビジョンというこの巨大なメカニズムの中になつて。

あたり前な話ですが、テレビは機械です。それはそれ自体の魂なんてもっていない。それに魂を与えるのはわれわれ人間の筈です。テレビは、テレビだけでは何ものでもない。それは人間に奉仕することによって始めてテレビジョンの名に値するのです。それは、もともと、見るためのひとつの手段にすぎない筈^{はず}です。

I

テレビセットが高価なせいもあって、日本ではまだ何かテレビジョンというものを意識しすぎるように思うのです。テレビジョンのもつ最も本質的でかつ最も単純な意味、つまり見えないものを見ることの意味、その軽やかさと可愛らしさ、そのどこかお伽話^{ていせ}的な感じ、それを失いたくないと思います。もう十年もすれば、テレビなどラジオ以上に当り前のものになつてしまつて、どこを探してもお伽話的なところなど無くなつてしまふに違いありませんが、その時にでもごく少数の人々、例えば子供たちや詩人たちの中の誰かが、ふとした時にそんな感じ方をしてくれないでしょう

か。

II

*

見えないものを見る、これは実はもともと詩人^③のビジネスなのです。歌の翼、想像力の雲にのって、詩人は数々のイメージをつくり出します。勿論それらをすぐにテレビカメラでのぞきこむという訳にはいきませんが。ラジオの世界では、近頃、詩劇という言葉は一寸した流行語です。誰にでも聞くことの出来る音をそれらしく聞かせる、というところから脱して、人間の内面の声を純粹な形で発見してゆこうという動きではないでしょうか。いわゆる音響効果というものにしたって、今日ではもはや擬音というものとは事実上存在しません。現実の音を真似るといっても、ドラマ自身の必然性によって、音響効果は音楽と殆んど等価値の、いわば内面性をもって扱われるのが常識です。だから、そこで使われる音は、現実には無い音であることも多いのです。

ラジオがそのように、自らの音というものを一方で内面化してゆくのと同じように、テレビもそのイメージを、そういう方向に向けてゆく可能性が考えられないでしょうか？ そうなると、テレビジョンのテレ——遠く離れた、という意味も、必ずしも物理的な距離だけを意味しないようになります。それは幻——ヴィジョンというものがいつも人に対してもっている、あの神秘的な遠さそのものにもなる訳です。

見えないものを見るということの一つの面、すなわち、物理的な遠さによって見えぬものを見るのは、機械にまかせておけばいいのです。しかし、そのもう一つの面、いわば夢見る可能性、それは芸術の問題、とりわけ詩人たちの責任だと思います。

だが具体的に一体どういう仕事が可能か、それはまだ見当もつきません。別にテレビドラマの分野に限らないと思うのですが。

III

*

テレビを見るということは、映画を見ることよりは
B ではないでしょう。真暗な大きなホールの中に坐って、両隣も前後も赤の他人、ちよつと咳でもすると忽ち叱られる、そんな映画館の中とは違って、テレビは晩御飯のあとの茶の間で家族と一緒に楽しむもの、或いは、喫茶店の中にしたところで、隣のテーブルのお客と顔を見合わせて笑うことも出来ます。テレビの方が映画よりはまだ人間的なところがあるようにも思えます。それは確かに、画面の大きさにも関係していることだと思いますが。

C

よくには映画の魅力は多く、その非人間的とも言える
C 性にあるようです。例えばシネスコの西部劇などを見る場合、その魅力の大半はシネスコの大画面に写し出された西部の風土にあります。どんなに筋がやぐざでも、ロケで撮ったものなら、よくは風景を見ただけで退屈しません。テレビはそうはゆかぬようです。映画でいえばハミリと同じことでしょう。おそらく当分の間、それはアップの技法で人間をみつめるという難しい途^{みち}をゆかねばならぬ訳です。

IV

テレビのそういう制約、それはしかし、制約であると同時に自由であると思います。というよりもむしろ、その制約を自由に転化するところにテレビの存在の意味がかかっているとも言えないでしょうか。

V

手近な例をあげれば、先日、『群衆の中の一つの顔』という映画を見ました。その中で主人公の田舎者が、初めてテレビに出演する場面が実に愉快でした。レンズをのぞきこむ、モニターをうつしてしまふ、カメラに帽

子をひっかける。テレビのことを何も知らないで滅茶苦茶^{めちゃくちや}をする、それが実に自由なのです。その主人公はラジオに出た時も同じ調子で、ミクサーに話しかけたり、マイクの前でパイを食べたり、勝手なことをするのですが、それを見て、ぼくは結局人間の魅力というものが最初にして最後だということを感じずにはいられませんでした。その人間というものは何もう人のタレントだけを指すものではありません。

D

、機械を超えた人

間的なものの迫力、とでも言えばいいのでしょうか。

テレビの座談会などに出ると、腹立たしくなります。ベニヤ板のはげかった壁に、紙の名画がかかり、こわれかかったフランス窓のむこうに、ニセモノの青空があります。出演者はみんな顔に愛想笑いをうかべて、カメラを意識しないようにとコチコチになる。上には何百キロワットの熱くてぎらぎらする照明、顔はドーランでこわばり、向うでは数十の眼^めがこちらをにらみつけている、そんな中で、自分の家の客間にでもいるみたいにふるまえと言ったって無理な話です。何故^{なぜ}すべてをそう、まことらしくしなければならぬのでしょうか。スタジオの中はスタジオの中にきまっているのです。大切なのは話をする人間なのだ。^④その人間をつかまえるのに最善をつくすべきです。そしてそのためには、その人間をもっと自由にさせるべきです。メイクアップもやめ、マイクと口の距離も自由にし、ライトも自然な明るさにし、カメラは自由な位置でうつせばいい、話や表情が面白ければ、画面にどんなものがうつろうと、見る方は気にしないに違いありません。

テレビドラマでも同じことではないかと思えます。機械を機械として使い切るだけの強さをドラマ自身が持っていること、それが結局一番大切な

のではないのでしょうか。言葉と表情と動きだけに頼る、最も古典的な仕方がここでもラジオの場合と同じく、詩劇というような形でよみがえってくるのではないのでしょうか。

*

技術の進歩は楽しみです。ビデオテープはあと何年位で実用になるのでしょうか、カラーテレビとビデオテープを組みあわせたら、おそらくアブストラクトや、ノンフィギュラティブの画家たちが黙っていないでしょう。超小型のウォークイ・ルッキイを任意の人のポケットに仕込んで「ある生活」を一人称で眺めたら、或いは月世界無人ロケットの旅行を全世界にテレビ中継したら、等々夢はいくらでもひろがります。

だがテレビの未来に、手放して樂觀的になっている訳にもゆきません。『群衆の中の一つの顔』の主人公は、その強烈な魅力にもかかわらず、テレビゆえに滅んでゆきます。機械を統率することの出来る人間の強さ^⑤、それがますます必要になってくるでしょう。それはテレビだけの問題に限らず、これからの人間の文明すべてにかかわる問題に他ならないのですが。

われわれ詩人にも勿論大きな責任がある訳です。オーディオの分野で、例えばミュージックコンクレートが最新最高の電子技術を用いて、むしろプリミティヴな生命感を求めているように、ビデオの分野でも、技術の進歩を新しい表現の手段として使いこなし、今まで見たことのないような新しい人間的イメージをつくってゆきたいものです。

(谷川俊太郎「新しいイメージを」による)

注1 この文章は一九五七年に発表された。なお、日本におけるテレビ放送の開始は一九五三年であり、一九五七年時点でのテレビの普及率はまだ低かった。

14

問1 傍線部①「ひどく可愛らしいところ」がある理由として本文中

で示されているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 魂を持たぬテレビが人間のために力を尽くす姿からは、人に奉仕するという単純な喜びが見えるから。
- ② テレビを見る子供は、おかゆと梅干に喜ぶ大臣や模型飛行機を好む科学者のように微笑ましいから。
- ③ テレビからは夕暮れの町のラジオ屋の店先できらめくテストパターンのような郷愁を感じるから。
- ④ テレビは遠くのものを見たいという子供っぽい単純な夢を實現するものだと思うから。
- ⑤ 科学者や政治家などの多くの人々がテレビのために尽力する姿が、まるで夢を追いかけているようだから。

15

問2 線傍部②「電気」の「デ」の字も知らぬような」に込められた意味として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 知識はなくても政治的、経済的な方面でテレビの発展に寄与できたこと。
- ② 政治家が多くのお金を得ている政治の腐敗に憤っている筆者の気持ち。
- ③ テレビの明るい要素が科学によって作られたまやかしだという絶望。
- ④ 巨大な企業となったテレビが資本主義によって支配されていること。
- ⑤ テレビのもつ可愛らしい要素を強調すること。

16

問3

空欄

A

に入る言葉として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① よくよく
- ② えてして
- ③ すべからず
- ④ からくも
- ⑤ さいわい

17

問 4

傍線部③「詩人のビジネス」である理由として本文中で示されているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① テレビが内面化されていき幻が神秘的な遠さになるから。
 ② すでにラジオの音が現実には存在しない音響効果となったから。
 ③ テレビカメラでは歌声の音を映像化することができないから。

- ④ 夢を見ることは詩人をはじめとする芸術家の扱う内容だから。
 ⑤ テレビが普及とともに当たり前のものになってしまったから。

18

問 5

空欄

B

に入る言葉として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 孤独
 ② 知的
 ③ 無常
 ④ 純粹
 ⑤ 曖昧

19

問 6

空欄

C

に入る言葉として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① ドラマ
 ② ファンタジー
 ③ スペクタクル
 ④ ダイレクト
 ⑤ モダン

20

問 7

空欄

D

に入る言葉として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① しばしば
 ② ゆえに
 ③ つまり
 ④ もつとも
 ⑤ かし

21

問8 傍線部④「その人間をつかまえる」とはどういうことか。最も

適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① テレビの出演者が持っている性質がわかるようにすること。
- ② テレビ番組の製作者の意図を正確に伝えること。
- ③ テレビ映りのよい人をスタジオにつれてくること。
- ④ 出演者たちが自由にふるまっているかのような自然な演技をすること。
- ⑤ 人の心の中にある闇をテレビの中で再現すること。

22

問9 傍線部⑤「人間の強さ」とはどういうことか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 人類の文明を発展させ持続可能な社会を作り出すこと。
- ② テレビの中でも自由にふるまえる個性を持っていること。
- ③ 新しい技術をいかして新しい芸術を作り出せること。
- ④ テレビの技術を適切に活用できる能力を持つこと。
- ⑤ 生命感を持った新しい人間的イメージを持っていること。

23

問10 以下の文が入る場所として、最も適切なところを、後の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

テレビが見るのではない、我々人間が見るのです。

- | | | | | |
|---|----|-----|----|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| V | IV | III | II | I |

24

問11

本文中でテレビについて述べられている内容は何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① テレビはラジオと同じように古典的な詩劇を放送すべきであり、映像的な要素はテレビにとって重要ではない。
- ② テレビの撮影はまだ出演者にも十分理解されておらず、レンズをのぞき込んだりしている人もいる。
- ③ テレビには人間性が重要になってくるにもかかわらず、新しい技術は人間性を奪い去ってしまった。
- ④ テレビの遠くのものを見るという特性は詩と共通するものがあり、詩人がテレビ制作のためにできることがある。
- ⑤ テレビは人間の夢をかなえる機械であり、政治家やお金持ちもその夢のとりこになっている。

25

問12

課題文の筆者である谷川俊太郎の詩集を次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 『春と修羅』
- ② 『にんげんだもの』
- ③ 『月に吠える』
- ④ 『二十億光年の孤独』
- ⑤ 『汚れつちまつた悲しみに』

三

次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

道ばたにひっそりと咲く雑草の花に、心打たれるときがあるかも知れない。

しかし、野生の植物が花を咲かせるのは、人間に見てもらうためではない。昆虫を呼び寄せて花粉を運ばせるためである。

人知れず咲く小さな雑草の花であっても、それは同じである。すべての花は昆虫を呼び寄せるためにあるのである。

美しい花びらや甘い香りも、すべては昆虫にやってきてもらうためのものなのだ。そのため、花の色や形にも、すべて合理的な理由がある。花は、何気なく咲いているわけではないのである。

たとえば、春先には黄色い色の花が多く咲くようになる。

黄色い花に、好んでやってくるのはヒラタアブなど小さなアブの仲間である。もちろん、人間には黄色い色に見えても、昆虫には紫色線が見えているかは、昆虫に聞いてみないとわからない。よく昆虫には紫外線が見えるという話がある。黄色い花は紫外線が少ないので、紫外線が少ないというのが、アブが好む特徴なのかも知れない。

アブは、まだ気温が低い春先に、最初に活動を始める昆虫である。そのため、春先の早い時期に咲く花はアブを呼び寄せるために、黄色い色をしているのである。

もっとも、アブが好むから黄色い花を咲かせるようになったのか、黄色い花が多くなって、アブが黄色を好むようになったのかは、「卵が先か鶏が先か」で、よくわからない。

しかし、春先には黄色い花が咲き、黄色い花にアブが来るという植物と昆虫との約束事ができあがったのである。

ただし、アブをパートナーとするには、問題があった。

ミツバチのようなハナバチの仲間は、同じ種類の花々を飛んで回る。

ところが、アブはあまり頭の良い昆虫ではないので、花の種類を識別するようなことはしない。そして、種類の異なるさまざまな花を飛び回ってしまうのだ。これは植物にとっては、都合の良いことではない。

同じ黄色い花だと言って、タンポポの花粉がナノハナに運ばれても、種子はできない。タンポポの花粉は、タンポポに運んでもらわなければならないのである。

それでは、アブに花粉を運んでもらう植物は、どうやってきちんと花粉を運んでもらえば良いのだろうか。

これは難題である。しかし、野に咲く雑草であっても、この難問を解決しているのだから、すごい。

じつは、春先に咲く黄色い花は、集まって咲く性質がある。

集まって咲いていれば、アブは近くに咲いている花を飛んで回る。そうすれば、結果的に同じ種類の花に花粉を運ぶことになるのである。

特に、小さなアブは飛ぶ力がそんなに強くないので、まとまって咲いていれば、近場の花を回ってくれる。

こうして、春先に咲く野の花は、集まって咲く。春に、一面に咲くお花畑ができるのは、そのためなのである。

黄色い花は、アブをパートナーとして花粉を運んでもらっていた。

一方、紫色の花はミツバチなどのハナバチをパートナーに選んでいる。

ミツバチは紫色を好む。紫色の花は紫外線も多いから、ハチは紫外線を合図にして紫色を選んでいるのかも知れない。

ミツバチなどのハナバチは、植物にとっては、もっとも望ましいパートナーである。

何より、ミツバチは働きものだ。ミツバチは女王蜂を中心として家族で暮らしている。そのため、自分の餌だけでなく、家族のために花から花へと飛び回り蜜を集めるのだ。つまり、植物にとっては、それだけ、たくさん花粉を運んでもらえることになる。

さらにハチは頭が良く、同じ種類の花を識別して花粉を運んでくれる。また、ハチは飛翔能力が高いので、遠くまで飛ぶことができる。そのため、ハチが花粉を運んでくれる植物は、離れて咲いていても、しっかりと花粉を運んでもらうことができるのである。

この優秀なパートナーを惹きつけるために、ハチを呼び寄せる花は、たっぷりの蜜を用意してハチを出迎える。

ところが、これには問題があった。

蜜をたくさん用意してしまうと、ハチ以外の他の虫も集まってくる。う。せっかくフンパツ^aして用意した蜜を他の虫に奪われてしまうのだ。

紫色の花は、どうやってハチだけに蜜を与えることができるのだろうか。人気のある学校に入るためには、「入学試験」というものがある。

じつは、紫色の花も、蜜を与える昆虫を選ぶための「選抜試験」を行うのである。

紫色の花は、複雑な形をしているのが、特徴である。この複雑な形が、まさに入試問題である。

身近な雑草であるホトケノザの花を観察してみることにしよう。

ホトケノザは、スミレやタンポポほど知られていないかも知れないが、小学校の生活科の教科書でも紹介されるほど、身近に見られる雑草である。ホトケノザは小さな花だが、よく見ると、なかなか美しい花を咲かせている。

下の花びらには、ハンテン^bのような模様がある。これが、蜜のありかを示す「蜜標^①」と呼ばれるものである。蜜標はガイドマークや、ネクターガイドとも呼ばれている。この蜜標を目印にして、ハチはこの花びらに着陸する。下の花びらはまるでヘリポートのような役割を持っているのだ。ホトケノザは、ミツバチが訪れるのには小さいが、小さなハナバチが訪れる。そして、花びらに着陸すると、ちょうど着陸した飛行機を誘導するラインのように、花の奥に向かって蜜標が続いている。この道しるべに従って、花の奥深くへと進んでいくと、花の一番深いところに蜜があるのである。

横からホトケノザの花を見ると、花の形が細長く、花の奥が奥深くになっている。じつは、この狭い中に潜り込んで行って、後ずさりして出てくるというのが、普通の昆虫は得意ではない。これに対して、ハチは花の奥深くへ潜っていくことを得意としているのである。

蜜標が蜜のありかを示すサインだということが理解できる頭の良さ、そして花の奥へと入っていくことのできる勇氣と体力を持った虫だけが、蜜にありつくことができる。

こうしてホトケノザは、知力テストと体力テストによって、パートナーとしてふさわしいハチだけに蜜を与えることに成功しているのである。

ホトケノザだけでなく、紫色をした花は、どれも蜜標や奥に深い構造を

問1 傍線部 a ～ c の片仮名部分の漢字表記として最も適切なものを、

それぞれの ① ～ ⑤ の中から一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

26 a フンパツ

① 噴発 ② 憤発 ③ 奮発 ④ 分発 ⑤ 紛発

27 b ハンテン

① 斑点 ② 反転 ③ 範典 ④ 版点 ⑤ 半転

28 c シュビ

① 守備 ② 主美 ③ 朱美 ④ 首尾 ⑤ 手皮

29 問2 春先に黄色い花が多く咲く理由として、本文で述べられている

こととして最も適切なものを次の ① ～ ⑤ の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 人間の注意を最も引きやすい色だから。

② 早期に活動開始するアブを効率的に引き寄せる色だから。

③ ミツバチが、蜜のありかを見つけやすい色だから。

④ 寒い気候でも花びらが凍りにくい色素により発色しているから。

⑤ 土の中で育つ球根にとって最も生成のしやすい色だから。

30 問3 アブを花粉の運び手とするこの問題点として、本文で指摘さ

れていることとして最も適切なものを次の ① ～ ⑤ の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 体が小さすぎて、十分なだけの量の花粉を運べないこと。

② 蜜を吸うだけで、花粉を運ぶことに興味を示さないこと。

③ 花の種類が見分けられず、異種の花を飛び回ってしまうこと。

④ 警戒心が非常に強く、すぐに花から飛び去ってしまうこと。

⑤ 一日のうち、早朝にしか活動しないため受粉の機会が少ないこと。

31 問4

アブに花粉を運んでもらう植物は、異種交配を避けるためにどのような戦略をとっているか、最も適切なものを次の ① ～

⑤ の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 虫が嫌う特殊な匂いを放出する。

② 花びらを開く時間帯を限定する。

③ 同じ種類どうしで集まって開花する。

④ 受粉が成功すると花の色を変える。

⑤ めしべの構造を虫の体に特化したものにする。

32

問5 二字熟語の構成(組み立て)として、傍線部①「蜜標」と最も

類似性が高いものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 左右
- ② 洋画
- ③ 選抜
- ④ 難易
- ⑤ 頭痛

33

問6 傍線部②「植物とハチとは共に進化を遂げてきた」とは、具体的にどのような関係性を指すか、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 花がより選別的な構造に進化し、ハチもその構造に適応する能力を進化させるといふ、相互作用的な関係。
- ② 植物が一方的に進化し、それに合わせてハチが受動的に変化してきたという、主従的な関係。
- ③ 植物とハチが、共通の天敵から身を守るために協力し合うように進化してきたという、防衛的な関係。
- ④ もともと競争関係にあった植物とハチが、生存のために互いを利用する共生関係へと進化したという、和解的な関係。
- ⑤ 植物とハチの進化は全く無関係に進んだが、結果的に相性が良くなったという、偶然的な関係。

34

問7 傍線部③「もし、ある学校が昨年とまったく同じ問題を出したとしたら、どうだろう」とあるが、この問いかけの修辭的な効果として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 入学試験における問題作成の重要性を、読者に訴えかける。
- ② 身近な例えで読者の共感を得て、本題への関心を引き出す。
- ③ 筆者自身の過去の失敗談を語り、読者に親近感を持たせる。
- ④ 読者の記憶力を試すことで、文章への集中力を高める。
- ⑤ 学校教育が抱える構造的な問題を、暗に批判する。

35

問8 本文によれば、ホトケノザが花を複雑な構造にして「知力テスト」と「体力テスト」を行う究極の目的は何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 蜜を盗みに来る昆虫を捕捉することで、自分の養分とするため。
- ② 蜜を得る難易度を上げること、蜜の全体的な消費量を抑えるため。
- ③ より多くの種類の昆虫に挑戦させ、受粉の確率を最大限に高めるため。
- ④ パートナーとして最適なハチだけを選抜し、効率的に受粉するため。
- ⑤ ハチの知能と体力を訓練し、より優秀な花粉の運び手に育てるため。

36

問9

本文の内容から推論できる、花の特徴と、その花粉を媒介する昆虫の性質との関係として、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 花の構造が複雑であるほど、より知能が高く特定の行動に長けた昆虫をパートナーとして選ぶ傾向がある。
- ② 花の色が鮮やかであるほど、昆虫ではなく鳥に花粉を運んでもらう傾向がある。
- ③ 蜜を多く出す花ほど、あらゆる昆虫を無差別に受け入れる傾向がある。
- ④ 花の匂いが強いほど、昆虫に花粉を運んでもらうことに依存しない傾向がある。
- ⑤ 花びらの形が左右対称であるほど、夜間に活動する昆虫をパートナーとして選ぶ傾向がある。

37

問10

傍線部④「すべての生物は、自分の得だけのために利己的に行動している」という記述に基づく、植物が昆虫に蜜を与える行動はどのように解釈できるか、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 昆虫を助けるための奉仕ではなく、自らの子孫を残す（受粉する）という目的を達成するための投資。
- ② 生態系全体の繁栄を維持するために、自らのエネルギーを他者に分け与える自己犠牲的な行動。
- ③ 昆虫からの見返りを直接的には期待しない、種としての余裕を示す純粹な贈与。
- ④ 作りすぎて余った蜜を、仕方なく昆虫に分け与えているだけの行動。
- ⑤ 進化の過程で残ってしまった、特に合理的な理由や目的のない過去の時代の習性。

38

問11

筆者が本文全体を通して最も伝えたいと考えられることは何か、最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 一見すると何気ない自然現象にも、個々の生物の利己的な行動原理に基づいた合理的な仕組みが隠されていること。
- ② 人間社会と同様に、自然界もまた助け合いの精神や道徳心によって成り立っているということ。
- ③ ミツバチのような優秀な送粉者を保護することが、生態系の維持にとって不可欠であるということ。
- ④ 植物が発揮している力を、人間はもつと医療に活用していくべきであるということ。
- ⑤ 美しい花や可憐な昆虫の姿の裏には、常に過酷な生存競争が存在しているということ。

(以上で問題は終わります。解答票の解答番号 39 以降は使用しません)